



J. A. R. L. 宮城県支部報

第 5 号

社団法人 日本アマチュア無線連盟
宮城県支部
昭和56年3月25日 発行
発行人 小元久仁夫 JA7AFP
編集人 小野寺三郎 JH7LDO

〔JARL宮城県支部大会（55.9.14 仙台市民会館）に於ける，斎藤専務理事の特別講演の一部を御紹介致します。〕

「私とアマチュア無線」

J. A. R. L. 専務理事

JA1AD 斎藤 健

只今御紹介に預りました JA1AD 斎藤たけしでございます。今日は宮城県支部大会にお招き頂きまして誠に有難うございました。

午後のひと時，しばらくの間おつき合いの程をお願い致します。

私が生れましたのは 1913 年第一次世界大戦が始まった T2 です。CQ社のコールブックの第1ページのはじめでは，JA1AD は最も年長者ですが，現在でも電波は出ますし，毎日 JARL の仕事もさせて頂いております。私は OM と呼ばれるのが大嫌いで，Young Boy の YB か，せめて OB 位に呼んで頂きたいと思っています。

私が始めて無線というのを知りましたのは，丁度関東大震災の翌年，だいぶ古いんですが T13 です。当時小学 5 年生で，夏休みに，本屋さんで色々和本を見ましたら「無線と実験」という本を見つけました。

無線電信，無線電話という言葉だけは聞いてました。何か針金を引ばらなくとも通信が出来るらしいという事は知ってましたので，その本を開いて見ましたが，内容はチンプンカンプンでした。当時一番読まれていた「少年クラブ」は 50 銭でしたが「無線と実験」は 70 銭か 75 銭でした。「無線と実験」は大正 13 年 5 月に創刊されました。私にとっては，なかなかむずかしい本でしたが，大変魅力があったので，7 月号つまり第 3 号から愛読者になりました。以来ずうっと購読しておりまして，私の無線の知識はこの「無線と実験」誌によって養われたようなものです。その後，縁あって「無線と実験」を作るようになりました，と申しますのは「無線と実験」を出しておりました本屋さんの息子さんが私と中学校同級生でございまして，その頃学校を出まして不景気で遊んでおりましたところ，「無

線と実験」の編集をやってみないかと云われまして，好きなものですから早速その気になりまして入社させていただき，約 10 年ほどお世話になりました。T13 に「無線と実験」が出てから 57 年程になりますが，私は第 3 号以来の最も古い愛読者の 1 人にはいるわけです。大正 13 年という年は非常に記念すべき年でありました，と申しますのは，それまでの無線は長波万能でありまして，電波というものは波長の長いほど減衰が少く，波長が短くなるに従って減衰が多くなるので，短波は遠くへは届かない。波長は 200 メートル以下の短波は，とても実用にはならないと考えられていました。そこでアメリカ，フランス，イギリスでは役に立たない 200 m 以下は素人（当時は，アマチュアとは言わずに，素人と呼んでおりました。）に開放してもよいだろうというわけで，波長 200 m 以下は素人が使ってもよろしいという非常に大ざっぱなとり決めが出来ました。

ところが T12. 11. 27 にフランスのニースの F8AB とアメリカのコネチカットのハートフォートの 1MO とが 110 m の波長で交信出来たのです。この記事が 1 年後の T13. 11 月号の「無線と実験」にのりました。これは私が初めて目にした短波による遠距離通信の記録でありました。

ヘルツが始めて電波の存在を実験で証明した時の電波の波長は数ミリか数センチでしょうから，今で言えば SHF の領域に属するものであったろうと存じます。それをマルコニーさんが通信に役立つのではないかと思いついて，色々やっている中に，偶然，アンテナとアースを試みたところ，たまたま大成功で，数百メートル離れて通信が出来ました。アンテナをだんだん高く長くすればするほど電波は遠くへ届くという実験結果が出て来ました。「歴史はくり返す」で今や通信の世界

はHFから極超短波VHF, UHF, SHFに移りつつあります。

私も「無線と実験」を見て面白そうだなあと、無線の機械を作ってみようと思ったのですが、いかんせん部品が高くて手が出ませんでした。当時は大学を出たての初任給が40円位でした。それに対し、バリコン1ヶ5円か6円、真空管1本10円、ヘッドホーンが10円、鉱石ラジオが30円位ですので、当時の私の2円か2円50銭の小使いではなかなか部品を求めていることが出来ませんでした。

始めて作ったのは鉱石ラジオですが、コイルは、直径8cm位の大きさの紙筒に0.8ミリ位の二重絹巻線をクルクル巻いて作り、バリコンは大きな試験管を2本、1本の中にもう1本入る位のを買ってきて、タバコの銀紙をもらって試験管に貼りつけ、それに線をつなぎ、差し込んで、出したり入れたり出来るようにして作り、鉱石を買って来て、やっと当時のJOAKを聞くことが出来ました。(中略)

その頃のラジオ界の最も大きな出来事といえますのは、今の電気通信研究所(通研)と電波研究所とを合わせたようなものに当る通信省電気試験所第4部と云うのが東京の五反田にあって、その出店が茨城県の平磯にありました。そこでアメリカの放送が受信出来たというのが私の知ってる範囲では当時の一番のBig Newsでした。その時使用したのは、ニュートロダイオンといまして高周波増巾2段、検波、低周波増巾2段の5球式ラジオとスーパーヘテロダイオン、これは実に球数が11もあるという、2台の受信機で、共にアメリカの放送が受信出来たのです。それから俄然そのニュートロダイオンという受信機が流行しました。

その頃アメリカの素人無線(アマチュア無線のことを当時はこのように呼んでいました。)が40mの波長(いまの7MHz付近)で、だいたい再生検波低周波1段の2球の受信機で聞こえるということが「無線と実験」にのるようになりました。

埼玉県の岩槻に無線通信のための受信所がありましたが、そこに短波の送信機と受信機を置いて短波の実験通信を行いました、J1AAと云うコールサインが使われましたが、これが、実は、通信省公認のアンカバ局だったそうです。20m(14MHz)送信機は入力1.5KW、40m(7MHz)送信機は入力500Wで、受信機は再生検波低周波増巾1段の2球式が使われました。

J1AAはずい分活躍しまして、当時の世界中の殆ど総ての地区の素人無線と交信したようです。実験終了

と共にこのJ1AA局は自然消滅しました。

大正13年から大正末期にかけて、ほんとうのアマチュア無線の個人局(ただし、アンカバ)がふえてきました。たとえばT15.3.5に1TSと3WWが7メガで交信に成功して、関東と関西のグループが初めて空で結ばれ、それによって関東あるいは関西だけにしかないと思われていた同好の士が関西あるいは関東にもいるということが判った次第です。

今のJARLの創立はT15.6.の12日か28日の何れかですが、記録がハッキリしていません。

最初はJARUという名称にする予定でしたが、「無線と実験」がどうしたのかJARUという団体を作るという宣伝を始めたので、急速、JARLと名称を変えて発足したわけです。これに参加した同好の士は38人おりましたが、全員アンカバでした。みな、いちどは捕まったり、色々やったようですが、捕まえるばかりではしょうがないから、素人無線を何とか認めてやらなければいけないのではないかという考えが通信省の方に出て参りまして、結局「私設無線電信無線電話実験局」と云う、いわゆる実験局として始めて許されることになりました。昭和2.3.1に2局出来ました。JLYBとJLZBです。船と同じようなコールサインで、数字は入っておりません。JLYBは有坂さんで、横須賀の海軍大尉でして、今のJARLの常任理事の有坂芳雄さんのお父さんです。有坂さんは親子孫と3代続きのアマチュアさんで、親子2代と云うのはそう珍らしくありませんが、3代と云うのは珍しいのではないのでしょうか。JLZBの楠本さんは「無線と実験」の記者を一寸やっておって、その後通信省に入りました。「無線と実験」の記者をやっていた時代に知り合いになったアマチュアさんを捕まえたりしたもんだから、そんな関係で「無線と実験」とJARLと仲が悪くなって、一時だいぶもめたことがありました。S2.9.10に特殊な人(軍部とか通信省関係の者を意味します)以外の一般人に実験局が開放されて、JXAXからJXHXまで8局が許可されました。波長40m(7MHz)は現在は巾が100KHZくらいしか自由に使えませんが、その頃は7MHz付近から10MHz付近までで大変巾が広く、約3MHzくらいもありました。

当時私は短波の方に興味を持っておりまして、1局だけおくれて許可になったJXIX(笠原功一OM)の記事を参考にして短波受信機を組み立て、アマチュアさん達の交信に聞き入ったものでした。戦前は、中波の放送バンド以外は、受信だけでも通信省の許可が必要でしたので、捕まったら大変と、レポートも出さず本当に内緒でやっていました。

(紙面の都合で以下割愛します)

[文責 編集係 JH7LDO]

1980 年度 支部 事業 を 終 えて

JARL 宮城県支部長 JA7AFP

小元 久仁夫

陽春の候、V・UHFのコンディションも日増しに上ってきましたが、皆さんもお元気に御活躍のことと思います。月日の経つのは早いもので、昨年今頃、宮城県支部長にと多数のOMの方々から御推薦を頂き、立候補の決心をしてから丁度一年になりました。

皆様方からの心強い御支援のお陰により、新規に追加した幾つかの支部事業も無事予定通り実施することができました。心から厚く御礼を申し上げる次第でございます。

顧みますと、この一年間はあっという間に過ぎ去った感じがありますが、それでもいろいろと反省させられる一年でもありました。以下、昨年度の事業を中心にこの1年間の反省と新年度への抱負と事業計画を御紹介しながらお知らせしたいと思います。

支部規程の改正・補充を昨年6月に行いました。全国的に支部規程をみてみますと、千差万別の感じがいたしますが、私達の支部規程は現行にかなり合ったものだと感じております。これから大事なことは今後この規程類をどう運用するかにかかっていると思います。

支部報の発行と配布。これまで発行された支部報を他県と比較して(勿論内容の話)本県の支部報が内容的に勝っているとは思えないということで編集専門委員会を発足させましたが、他県に追いつき、追い越すまでにはまだ当分時間がかかりそうです。前報でもお知らせいたしましたが、問題は郵便料金の値上げによって年2回発行の支部報を会員の皆様のすべてにお届けできなくなったことです。今後は、支部大会の前の支部報は、会告をかねて全会員の皆様にお届けするものとしても、残りの1回は大変恐縮に存じますが、登録クラブ代表者を通じてか、SASEでお届けする以外に方法がないように思います。

1.2 GHzオールモード・トランスバーター製作講習会を昨年11月24日に行いました。1.2GHz帯はアンテナの製作実験や通信伝播実験、それに来るべき静止衛星利用の通信時代に備えて多数のアマチュア無線家が興味を持っていることは皆様大変良く御存知の通りです。そして、JARL NEWSやCQ誌等でも毎月どの頁にか全国のいずれのJARL支部かが1.2 GHz

帯の組立講習会を実施した記事が掲載されています。今回は14名の方々がJARL東北事務局でトランスバーターの組立を行いました。おりしもJA7IGYのビーコンもタイミングよく11月17日から仙台近郊海拔210m地点から発射されており、組上ったトランスバーターの受信調整に格好のパイロット・シグナルとなりました。

宮城県全市町村交信賞は全市郡賞および全市町村賞の2種類のアワードを1981年から発行すべくデザインを公募いたしました。支部役員一同で慎重に応募作品を審査いたしました。いずれも「帯に短し褌に長し」で今回は入選作品はなしということになりました(7頁参照)。アワードの印刷までは大変遅れましたが、すでにアワードの印刷も終り皆様方からの申請をお待ちしておりますので、これまで集められたQSLを整理の上どうぞふるって御申請下さるようお願い申し上げます。

Satellite QSOの普及を目指して県内の地域クラブからの要請により昨年は2つのクラブで「オスカー通信のノウ・ハウ」について勉強会を行いました。来年中には静止軌道に近くアマチュア衛星が打上げられますが、打上ってから準備しては遅きに失しますので現在でも利用可能なAMSAT OSCAR 7 & 8で実地訓練を済ませておかれることがよろしいかと思います。また今回、待望のオスカー通信担当幹事にJH7BJH(只野さん)をお迎え致しましたので、講師派遣の御要望等がありましたらどうぞ早目にお知らせ下さい。

V・UHF帯の使用区分につきましてはJARLの使用区分の遵守をお願いして参りました。また機会ある毎に皆様方にも直接・間接この件につき建設的かつ具体的な御意見をお寄せ下さるようお願いをして参りました。2月の理事会で周波数委員会に対して「145MHz帯についてのJARLの使用区分のうちFMの運用を144MHz帯まで下げてはどうか」という諮問がありました。今後上記委員会での件は審議されることになるかと思いますが、周波数委員会が答申案を出して理事会がそれを認めたとしても(例えば144MHz帯

のある周波数までFMの運用を認めようとしても）、実施まではまだ時間がかかることと思います。特定の周波数を長い時間占有したり、現実に使っていない周波数をクラブチャンネルと称してチェック・インしても「使ってます」等といったりしないよう紳士的かつ能率の良い運用を心掛けたいものです。まだまだ144MHZの下の方—SSBやCWバンドはガラあきといっても良いほどです。近い将来、Over—Sea QSOをする場合も、勿論OSCARやPHASE III 衛星を使った通信もすべてSSBかCWですからQRMのFMバンドに居座らないで、バンドを有効に使うことも考えて頂きたいと思います。

会員増とクラブ入会の促進については機会ある毎に養成講習会のオリエンテーションでも「JARLの会員になって下さい」とJARLの目的・組織・特典等について説明して参りました。今後とも引続き皆様方と一体になって支部会員を増やしていきたいと思っておりますので今後とも一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

1981年度事業は次頁に掲載の通りです。今年の支部大会はくりこまクラブと近隣の地域クラブが中心になって9月5日(土)の前夜祭を皮切りにして9月6日(日)に東北地方で行います。なお、支部大会の詳細は、JARL NEWS8月号や次回発行予定の支部報No.6に掲載いたしますので御覧下さい。家族そろって出掛けて楽しめる催物にしたいと関係者一同はり切っています。どうぞ支部大会(仮称第1回宮城県ハムの集い)

を楽しく、盛会にするためのアイデア等がございましたら是非お聞かせ下さい。

クラブ代表者会議は7月と12月に行いますが、12月はオープン参加を含めて前夜に忘年会を行いたいと考えています。

今年の製作講習会は2回行います。先ず5月3日にオスカー一用プリアンプ製作講習会(28MHZ帯)を、また10月10日には1.2GHZおよび2.3GHZ帯オールモード・トランスバーターの組立講習会を行う予定です。多数のパイオニア精神をお持ちの方の御参加をお待ちしております(8頁参照)。

支部主催のコンテストは今年6月と来年1月の2回行います。他県のアマチュア無線家に迷惑のかからないような周波数帯と時間帯を選ぶように徐々にバンドプランを改めていきます。なお、コンテスト参加局はくれぐれもV・UHF帯では呼出周波数を使用しないようお願いいたします。(呼出周波数で「CQコンテスト」×××、○○○をワッチします…も不可)。

今年度は秋春2回、国試の直前にCW講習会を企画しています。この機会にCWをマスターしたい方も含めて国試直前の腕試しに模擬試験も行いますので国試を目指しておられる方々の参加をお待ちしています。詳細は次の支部報とJARL NEWSに発表しますが、当日会場JARL(東北事務局を予定)でも受付ます。

以上が今年度の事業計画ですが、皆様の御協力と御支援によって1つずつ今年度事業を盛会に実行していきたいと思っております。どうぞよろしく願い申し上げます。

		昭和55年度決算報告		昭和56年度予算	
収	項	目			
	前年度繰越	収入		収入	
入	支	賞典		賞典	
	雑	収入		収入	
		計		計	
支	支	支部大会費		支部大会費	
	会	大議費		大議費	
	催	物費		物費	
	渉	外費		外費	
	通	信費		信費	
	交	通費		通費	
	消	耗品費		耗品費	
	支	部報発行費		部報発行費	
	事	務印刷費		務印刷費	
	出	コ		ンテ	
	ンテ		ス		
	ス		ト		
	賞		典		
	雑		費		
		計		計	
次年度繰越		収入		収入	

昭和 55 年度 事業 報告

- 55. 6.12 宮城県通信コンテスト
- 6.29 クラブ代表者会議
- 8.25 宮城県支部報No.4 発行
- 8.25 宮城県支部規程の改正
- 9.14 宮城県支部大会
- 11. 3 公 開 運 用
- 11.24 12GHZトランスミッター組立講習会
- 12.14 東北地区会計担当者会議
- 56. 1. 1 宮城県全市町村アワード発行
- 1.14～15 オール宮城コンテスト
- 2. 1 クラブ代表者会議
- 3.25 宮城県支部報No.5 発行

(宮城県支部役員会は毎月1回JARL事務局にて実施)

昭和 56 年度 事業 計画

- 56. 5. 3 オスカー用プリアンプ組立講習会
- 6.12 宮城通信コンテスト
- 7.19 クラブ代表者会議
- 7.31 宮城県支部報発行
- 9. 6 宮城県支部大会 (県北)
- 9.23 国試直前CW講習会
- 10.10 1.2GHZ
2.3 " トランスミッター組立講習会
- 11. 3 JA7RL公開運用
- 12.20 クラブ代表者会議支部役員会忘年会
- 57. 1.14～15 オール宮城コンテスト
- 2.23 支部報発行
- 3.21 国試直前CW講習会

(支部役員会は毎月第4月曜日PM6:00～JARL事務局にて)

第3回オール宮城コンテスト結果 (*は入賞局)

56.1.14 - 56.1.15 実施

<p>3.5MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JH7AXI 48 JR7UBM 4 JA7KP 1 <p>7MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JH0PES/7 35 JA7DNJ 3 <p>14MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JR7BRS 81 <p>21MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JF2DCZ/7 1428 * JH7CUO 962 * JR7FYT 530 JR7FHB 520 JR7UHG 384 JR7RZO 329 JR7FMH 296 JR7SWJ 256 JR7WOH 224 JR7RUL 189 JR7NJL 168 JR7WUT 133 JH7UYO 115 JR7DXE 45 	<p>28MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JH7UJU 387 JR7LPK 40 <p>50MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JA7EVP 936 * JI1FLB/7 869 * JR7REB 420 JR7VJA 396 JR7RZK 384 JR7DUT 368 JR7UIB 360 JH7EKJ 348 JR7TOO 296 JR7OPJ 232 JR7USW 210 JR7VQY 65 JH7CJM 32 JR7VJO 27 <p>144MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JR7HJN 2553 * JH7WDX 2380 * JR7HJO 1275 JR7THI 1246 JA7RCU 1215 	<ul style="list-style-type: none"> JA7MYX 1071 JR7GWC 1022 JR7ELD 910 JR7ASV 876 JR7EBT 726 JR7QIB 726 JR7NTP/7 567 JR7RPD 324 JR7CUX 232 JR7MZC/7 196 <p>430MHz</p> <ul style="list-style-type: none"> * JR7HKQ/7 1040 JR7HTF 225 <p>失 格 局</p> <ul style="list-style-type: none"> JH7THS } 切後提出 JA7AFJ } 規約違反 JA7SUK }
---	---	--

会 員 の ペ ー ジ

八木アンテナと宇田先生

JR7HFB 伊藤 昭一(石巻市)

(宮城メディカルクラブ所属)

八木アンテナを語る時、宇田新太郎先生は決して忘れてはならない人です。名前は八木アンテナですが、発明者は宇田先生であり、この事は宇田先生、御自身も述べて居られますし、八木秀次先生も帝国学士院記事で宇田先生がこのアンテナの発明者であると明記しています。電気学会雑誌に発表された短波長ビームについての論文も、工学報告の論文もすべて宇田新太郎の名で発表されています。

このアンテナについて面白いエピソードがあります。大東亜戦争開戦直後の昭和17年、日本軍がシンガポールを占領したとき、レーダー装置と1冊のノートが発見されました。軍ではノートの内容から英国のレーダーが相当すぐれたものであることがわかりましたが、YAGI Array と云う言葉がわかりません。そこで捕虜収容所からレーダー係を連れてきて聞いたところ、青い眼の彼は「八木は貴国の人の名前でしょう」と答えたことと云うことです。

従って八木アンテナと云う名は英国人がつけたもので、発明者の宇田先生の名が蔭にかくれてしまったのは、まことに残念なことでした。これは八木教授が単独で日本および英国特許をとったためと云われています。今日なら研究室の教授は事実上の発明者と共同の名で申請するのが常識ですが、当時はそういう時代ではありませんでした。しかし、その後の事情がわかって外国でも八木-宇田アンテナと呼ばれています。虫明先生との共著、英文の“YAGI-UDA Antenna.”は昭和29年に発刊され外国でも広く読まれています。

宇田先生が此の研究を始められた動機は、先生の組み立てた波長4mの超短波発振器はプレートとグリッドにそれぞれ1本の導線のループがとりつけてありましたが、これが予想外に強い、しかも指向性電波を発射していることに気付いたためです。これが宇田先生に電波の指向性と云うものに興味を覚えさせ、従来どこでも得られていない鋭いビームを得ようと云う情熱をかり立てる原因になったと云われています。宇田先生が、東北大学電気工学科を卒業して八木教室に入ったのが大正13年、八木アンテナの発明は大正15年で

29才の若さでした。当時は反射器を応用して指向性を得るのが常識でしたが、半波長より幾分か短い或る長さの金属棒を空中線の前におくと、前方に発射される電波が著しく強められ、所謂導波器 director として働くこと、そして director の数をふやせばその特性が益々顕著になることを発見したときの先生の喜びと驚きが、今でも論文を読む人の胸に伝わってきます。この director の系列と反射器を組合わせた wave projector が八木-宇田アンテナであり、今後の先生の研究の大きな柱になるわけです。

大正13年に岩槻受信所が短波受信に成功し、大正14年に東京放送局が放送を開始していますが、当時超短波、極超短波の研究は、国内では東北大学以外どこでもやっておらず、外国でも大会社の研究所やいくつかの大学で行われていたにすぎませんでした。この時代に先生が開発された超短波、極超短波無線電話機は通話距離を次々と伸ばし、波長45cmのマイクロ波で仙台と松島湾の大高森間30Kmの通話に成功しています。これは世界新記録で昭和5年にドイツとアメリカの無線学界雑誌に発表されました。更に翌年、4mの波長で仙台、金華山頂間60Kmの通話に成功しています。此のほか数々の実用化のための実験が仙台を中心として塩釜、松島湾、金華山、女川、江島の地で行われています。今年が石巻湾実験50年記念の年にあたりますが、宮城県のアマチュア無線の愛好家は、宇田先生の此の輝かしい実験の数々をしのび、超短波ビーム発祥の地である宮城県を大いに誇りにして、益々 activity を高めようではありませんか。

稿を終えるにあたり宇田先生並びに門下生の方々の業績をたたえ、資料を提供された関知四郎氏に深く感謝の意を表します。

衛星通信への挑戦

JA7JSK 佐藤 忠夫(気仙沼市)

(気仙沼クラブ所属)

CQサテライトDX DE JA7JSK JA7JSK DE WB7RMB シカゴ You are 59 over VHF 2 m SSB 信号で入感して来るサテライト衛星通信のスリルは味わたった局でなければわからないと思います。自分の信号をサテライト衛星に目がけて送り数百分の1秒から数十分の1秒の遅れで返って聞こえて来る感じはたまりません。私は宇宙通信、気象衛星、放送衛星に興味を

高めたのは1972年オスカー6号が打上った時から多くの衛星ビーコン信号を受信する事ができました。その頃、2mSSB送信機はなくアップバタの製作となり必要部品が手に入らず船舶無線機の廃品部品利用となり完成ループテスト成功で6号が消滅に終り現在7号B8号JモードにQRVしております。これまでのDX

カントリは20で少々少ない様でも今後静止衛星も上り楽しくなる事と思います。それにつけても心の準備サテライト通信は先ず受信からやってみましょう。

〔 会員の皆様の感想、意見、提案、その他何でも多数の御投稿をお願いします 編集係 〕

※ 支 部 登 録 ク ラ ブ 紹 介 ※

◎登米地域アマチュア無線クラブ(JA7ZYK)

事務局 JA7WAG 千葉 玄郎

当クラブは、会長JA7LN(大畑俊雄OM)を中心に登米地域在住のハムが結集して1972年(昭和47年)4月に誕生した。地域クラブとして県内9番目である。その後、幾多の消長があったが、現在は40局余の会員数で運営されている。コールブックを拾うと、郡内で免許された局は350局にもなっているが、QRTや他エリアへの流出等お空の方も過疎化が進んでいる。

「太く、永く」が理想だが、諸般の事情を考えると「細く、永く」続けていく以外ないのではと考える。幸い県内では初めての「1万局よみうりアワード」受賞局JA7EPC(伊藤氏)が、会員局の刺激になっているし、会長の温厚で面倒みのよい人柄が、会員の心の支えになっているので、派手さはないが細く永く会を存続させていきたいものと考えている。

行事としては、6月のフォックスハンティングが発

会以来8回実施し、毎回60~80局の参加と盛況である。遠くは岩手・仙台・石巻・気仙沼からも参加局がある。見学会は、県外県内、電波に関係あるところはほとんど歩いてこれまた好評である。

ことしは、会員の拡大をねらい、来年の10周年発展の年を目標に諸活動を計画している。

3月、アクティビティの高揚をねらい、UHFのリグをかけたマラソンコンテスト。

7月、電話級養成認定講習会等を予定している。なかなかアクティブな会運営はできかねている現状であるが、隣接各クラブをはじめ、各局の協力を得てキングオブホビーを続けていきたいものと考えている。登米各局に会った節には、支部各局長にはよろしくお相手お願いしたい。 73 & 88

(文責・JA7WAG)

(クラブ紹介の原稿を多数お待ちしております 編集部)

◇宮城県支部よりアワード発行

名称 All Miyagi Award

発行 JARL 宮城県支部

ルール 宮城県内の局と交信(受信)し、QSLを取得し次の条件を満たす。

- (1) 宮城県全市町村賞：宮城県内全市町村のQSLを得る。
- (2) 宮城県全市郡賞：宮城県内全市郡のQSLを得る。

宮城県全市郡賞は全市賞あるいは、全郡賞に分割し、個々に申請受賞することも可能。

申請方法 JARL様式、またはこれに準ずるGCR(市町村名記入)+700円(JARL会員500円)、海外局はIRC10枚。

申請先 〒980 仙台市大町2丁目13-12 立町ビル内 JARL東北地方事務局宮城県支部アワード係

失格事項

- (1) 相手局の運用場所の不明記
- (2) クロスバンド、クロスモードのQSO

参考事項

- (1) 本アワード申請に必要なQSLの交信または受信の年月日は昭和27年7月29日以降とする。
- (2) 発行番号は消印日をもって受付順とする。
- (3) SWLにも発行する。
- (4) 申請書は必ず郵送のこと。

◎ 宮城県全市町村交信賞および宮城県全市郡交信賞のアワードのデザインを公募しましたが、入選、佳作に該当する作品なく、JR7REB局のデザインの一部を採用しました。

JR7REB局は支部大会(9月6日)にて表彰(努力賞)します。

Q S P コ ー ナ ー

◇宮城県通信訓練コンテスト

昭和53年6月に発生した宮城県沖地震の教訓を生かす為、電文の送受信訓練と相互親睦を目的としたコンテストを開催いたしますのでお知らせします。

◎日 時：昭和56年6月12日(金)20:00～6月13日(土)06:00 (JST)

◎参加資格：宮城県在住の個人アマチュア局

◎周波数帯及び参加部門：21・50・144・430 MHz帯のシングルバンド部門・マルチバンド部門および登録クラブ対抗部門

◎電波型式及び空中線電力：オールモードとし電力は免許の範囲内で、なるべく低出力とすること。

◎呼び出し方法：①電信 CQ MY TEST

②電話 CQ ミヤギ コンテスト

※ その他のモードは上記に準ずる。

◎コンテストナンバー：RS(T)リポート+空中線電力(W)+市町村名(市郡ナンバーにあらず)+電文

◎電文について：①字数が20字の普通文とする。②発信電文は各局3例以上用意し同じ電文を連続して使用しないこと。③電話の場合は、和文通話表を使用することを原則とする。

◎得点及びマルチプレイヤー：電文の送受信を含めた完全な交信を1点とし、各バンドで得た異なる市町村の数をマルチとする。

◎総得点：各バンドで得た得点の和×各バンドで得たマルチの和

◎交信上の禁止事項：①クロスバンド及びクロスモードの交信 ②2波以上の電波の同時発射 ③呼び出し周波数の使用は特に厳禁(呼出指数周波数で“CQミヤギコンテスト145・×××で待機”などは失格とする) ④その他はJARLコンテスト規約に準ずる。

◎書類の提出：①サマリーシート、ロングシートはJARL制定の様式を使用すること。②電文は市販の原稿用紙(横書)に記入し、自局名と原稿用紙の通し番号を記載し左欄外に交信局名を附記する

こと。③ロングシートはバンド別に別葉綴りとする。④マルチバンドで参加した局であっても、任意のシングルバンド部門にエントリーする事が出来る。ただしその場合は、参加部門以外のログは「参考ログ」と右上に朱書し同時に提出すること。

◎ログ・サマリーの提出期限及び提出先：〆切、昭和56年6月30日(消印有功)〒980 仙台市大町2-13-12立町ビル内 JARL 東北地方事務局宮城県支部「コンテスト委員会」

※ 封筒表面に「コンテストログ在中」と朱書の上必ず郵送のこと。

◎失格事項 ①コンテスト規約に違反した場合 ②提出された書類に虚偽及び不備があった場合 ③書類提出が期限におくれた場合 ④郵送しなかった場合 ⑤重複交信を得点とした場合。

◎JARL登録クラブの得点：提出されたクラブ対抗得点票(サマリーシート下票)によりそれぞれ集計し、得点とする。

◎賞 ①マルチバンド 第1位～第3位まで ②シングルバンド 各バンド毎第1位 ③クラブ対抗 第1位

◎結果発表 JARL NEWS 及び支部報等(なお入賞者の表彰を9月6日の支部大会で行ないます)。

問合わせ先：〒980 仙台市大町2-13-12(立町ビル) JARL 東北地方事務局気付宮城県支部コンテスト委員会

◇オスカー用ブリアンプ組立講習会

主催：JARL 宮城県支部

日時：昭和56年5月3日(日)10時から

会場：JARL 東北地方事務局

会費：1,000円(当日持参)

申込：〒980 仙台市大町2-13-12(立町ビル)

JARL東北地方事務局気付ブリアンプ組立講習会
実行委員長 武田 久 尚 宛(ハガキで)

〆切：昭和56年4月30日(工具持参のこと)

◇宮城県支部大会(56.9.6)は県北に於て開催の予定です。詳細は次号に発表します。

◇第23回JARL通常総会(56.5.24新潟市)に欠席の会員は委任状を忘れずに御送り下さい。

(宮 城 県 支 部 役 員 異 動)

(退任) JA7ASJ 小泉 裕洋 56.3 ①エリアに転勤

(新任) V・UHF 担当 JH7BJH 只野 勝男
サテライト 〒989-23 宮城県亶理郡亶理町荒浜築港通り7-34 TEL 02233-5-2063

(住所訂正) 会計担当 JH7KOU 佐賀 俊博
〒981-31 泉市南光台南1-21-4 TEL 52-5255